

令和 6 年度 四国山地緑の回廊等モニタリング調査結果

※希少種が含まれる情報は公開していません

令和 7 年 2 月 12 日
四国森林管理局
株式会社 緑化技研

緑の回廊モニタリング調査の目的

広範で効果的な森林生態系の保全・管理を行う上で、野生生物の生息環境等を的確に把握し、順応的な管理を行う事が重要であることから、継続的なモニタリングにより緑の回廊及びその周辺における野生生物の状況変化の把握・評価等を行い、生物多様性の保全に資することを目的とする。

緑の回廊モニタリング調査の方針

- ・ 緑の回廊の機能を評価するための4つの視点（デザイン、価値、利活用、管理体制）
- ・ 各視点の基準・指標に従って、機能評価を実施

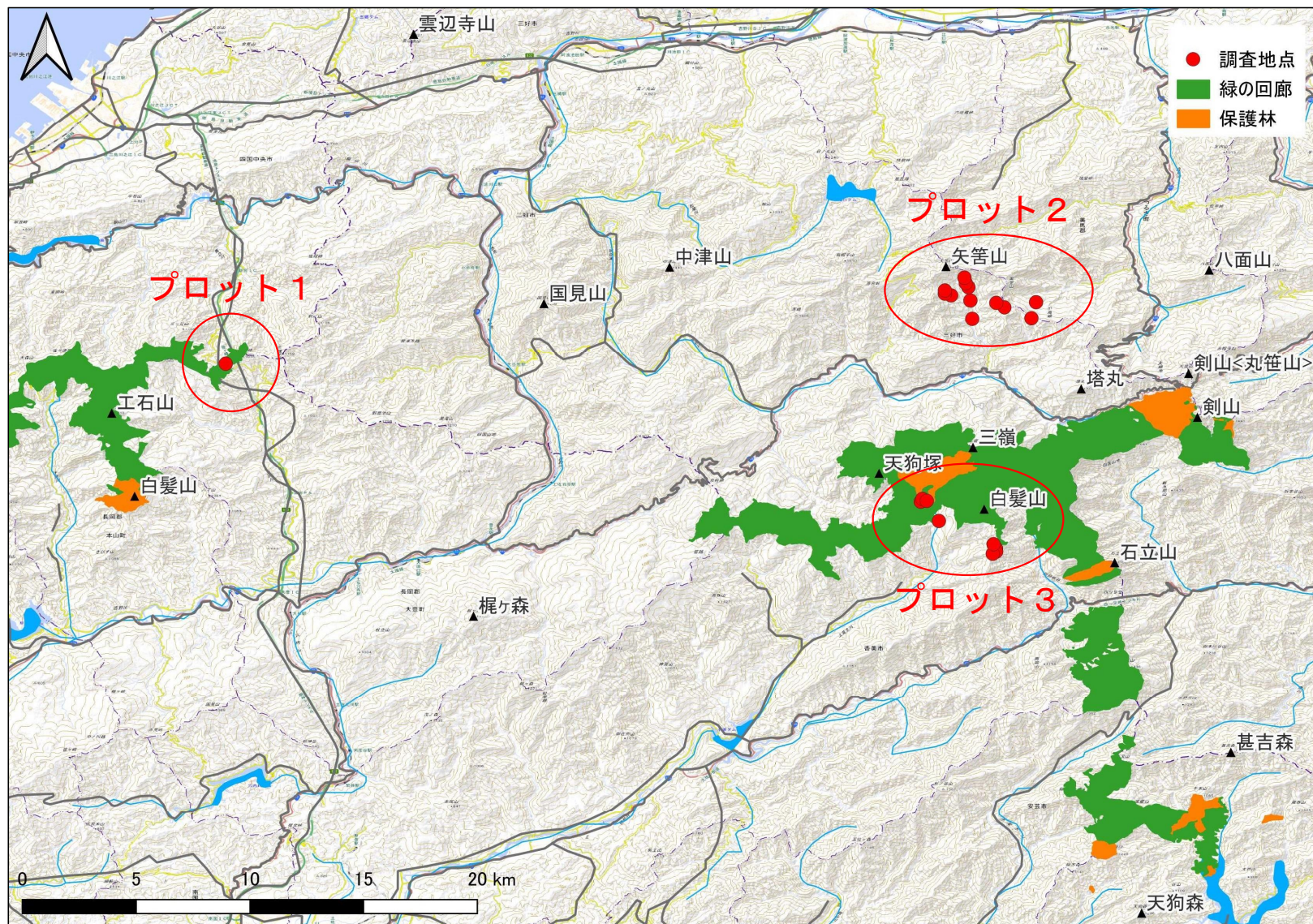
視点	基準	指標
デザイン	緑の回廊としての機能を発揮可能な森林が維持されている	森林の構成状況
		森林の被害状況
価値	野生動物の生息等に利用されている	野生動物の生息状況
利活用	森林環境教育の場として活用されている	森林環境教育の場としての利用状況
管理体制	適切な管理体制が整備されている	緑の回廊の普及啓発、巡視状況等

調査箇所・調査項目

- プロット1
上名山国有林
森林調査
哺乳類調査
・センサーカメラ調査
・フィールドサイン調査
・巣箱かけ調査
・シカ被害調査
・コウモリ調査
鳥類調査

- プロット2
菅生国有林
哺乳類調査
(ツキノワグマ)

- プロット3
蓮花野国有林
東熊山国有林
哺乳類調査
(ツキノワグマ)



■プロット1（上名山国有林 P1）



森林調査



スズタケブナ群団シラキーブナ群集（非老齡攪乱段階）

高木層 : ブナ大径木とアオハダの2本のみ

(10~21m)

亜高木層 : 過年度は被度20%であったが、本年度は被度

(6~10m) 40%と発達していた

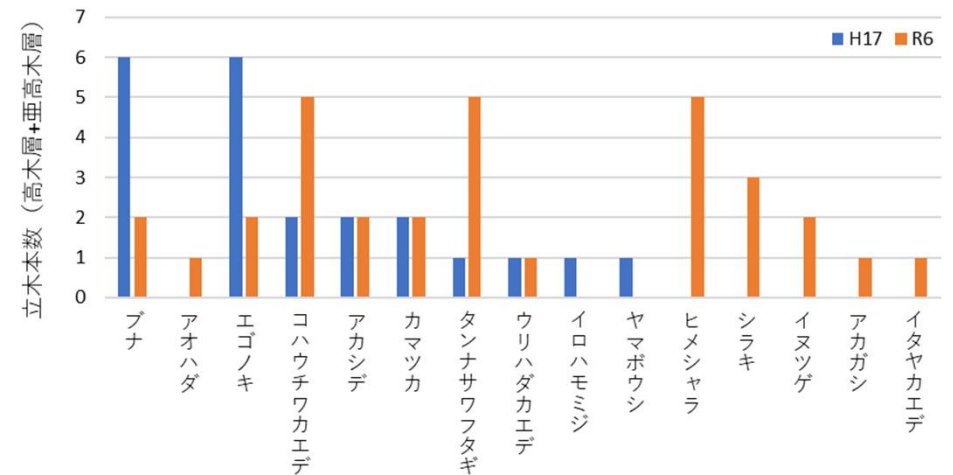
次世代の林冠を担うブナ個体あり

低木層 : スズタケ被度100%

(2.5~6m) シラキ、タンナサワフタギ等の低木種が生育

草本層 : 被度1%と低い

(0~1m)



[平成17年度結果]
(被度10% 本数2本)

種名	胸高直径 樹高
ブナ	65.5cm 20.1m
アオハダ	38.5cm 10.5m

[平成17年度結果]
(被度20% 本数20本)

種名	本数
エゴノキ	2
ブナ	1
コハウチワカエデ	5
アカシデ	2
カマツカ	2
タンナサワフタギ	5
ウリハダカエデ	1
ヒメシャラ	5
シラキ	3
イヌツゲ	2
アカガシ	1
イタヤカエデ	1

[平成17年度結果]
(被度100% 19種)

種名	優占度
スズタケ	5
シラキ	1
タンナサワフタギ	1
コハウチワカエデ	+
カジカエデ	+
カマツカ	+
ヒメシヤラ	+
エゴノキ	+
ムラサキシキブ	+
ツルマサキ	+
ウリノキ	+

[平成17年度結果]
(被度1% 17種)

種名	優占度
シキミ	1
エゴノキ	+
ウグイスカグラ	+
コミヤマスマレ	+
ツルニガクサ	+
イヌツゲ	+
コガクウツギ	+
タンナサワフタギ	+
ツルマサキ	+
フユイチゴ	+
ナンゴクナライシダ	+
ムラサキシキブ	+
スゲsp.	+
タムラソウsp.	+

哺乳類調査

- ・ センサーカメラ調査 設置期間：8月8日～12月6日
- ・ フィールドサイン調査

分類	科	種	確認状況				希少種の選定基準				外来種	
			プロット1									
			平成17年度 撮影 枚数	痕跡 情報	令和6年度 撮影 枚数	痕跡 情報	文化財	種保存	環境省	高知県		
哺乳類	ウサギ	ノウサギ	15									
	イヌ	タヌキ	7		8	○						
	イタチ	テン		○		○						
		アナグマ				1						
		イタチsp.	1									
	ジャコウネコ	ハクビシン	1		2							
	イノシシ	イノシシ		○	8	○						
	シカ	ニホンジカ	2	○	591	○						
総数	7科	9種	5種	3種	6種	4種	1種		1種	1種		
鳥類	シジュウカラ	シジュウカラ			1							
		ヤマガラ			1							
	鳥sp.		1									
総数	1科	2種	1種	0種	2種	0種						

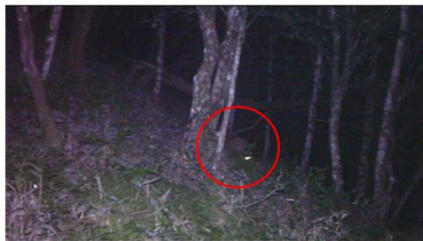
注1) 表中の数値はセンサーカメラで撮影された画像のデータ数である。
注2) 痕跡情報(フィールドサイン)は糞、足跡、食痕、剥皮、角とぎ、鳴き声、生体、死骸での確認である。
注3) 希少種の選定基準
文化財:「文化財保護法」において天然記念物に指定されている種
特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物
種保存:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されている種
国際: 国際希少野生動植物 国内: 国内希少野生動植物 緊急: 緊急指定種
環境省:「環境省レッドリスト2020」(環境省2020年)
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足
LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
高知県:「高知県レッドリスト(動物編)2017改訂版」(高知県2017年)において指定されている種
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足
注4) 外来種の選定基準
外来種:「外来生物法」において指定されている種
特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物



タヌキ (カメラNo. 3)



アナグマ (カメラNo. 3)



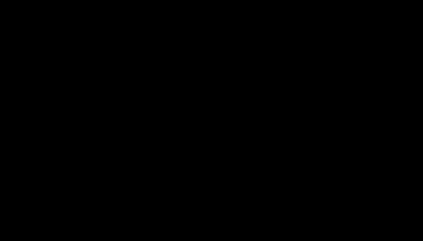
ハクビシン (カメラNo. 3)



イノシシ (カメラNo. 3)



ニホンジカ (カメラNo. 2)



シジュウカラ (カメラNo. 1)



ヤマガラ (カメラNo. 1)

・ 巣箱かけ調査

設置期間：8月8日～12月6日

樹上性小型哺乳類（ヤマネ、モモンガ等）
の利用痕跡は確認されなかった。



巣箱（8/8）



巣箱の設置状況（8/8）

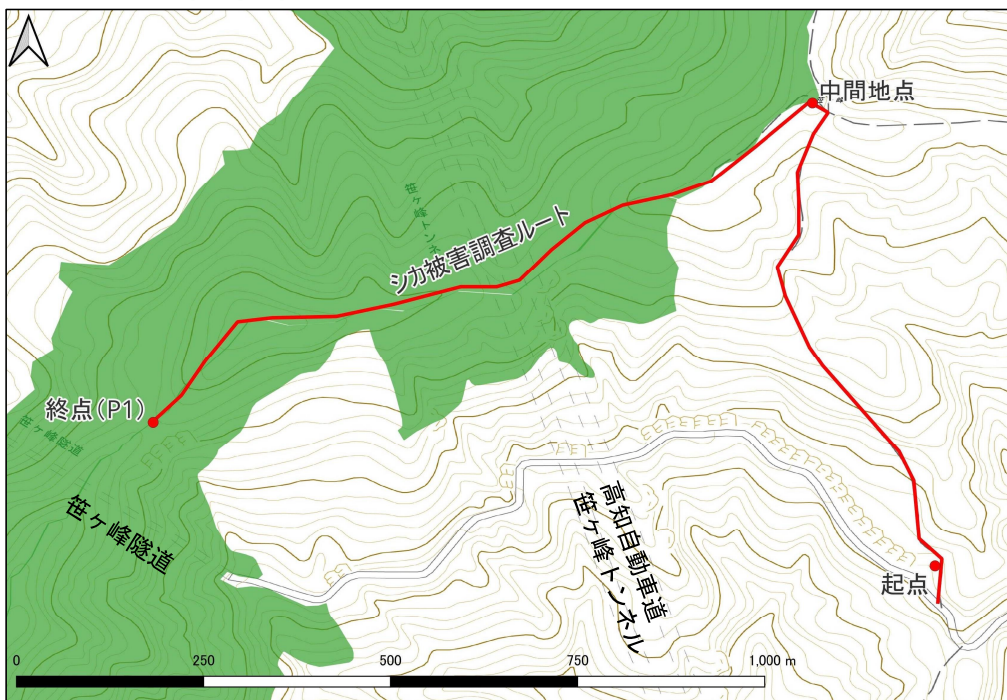


巡視時の状況（9/18）



回収時の状況（12/6）

・シカ被害調査



起点



中間地点



終点 (P1)

調査地点	調査環境	ニホンジカの痕跡等	植生被害レベル
起点	斜面地のヒノキ植林	食痕	1
中間地点	尾根部の落葉広葉樹林	糞、食痕、剥皮、鳴き声、ディアライン	3
終点	プロット周辺のブナ林	食痕	1 周囲の尾根部は2~3



リョウブ : 9 本



エゴノキ : 15 本

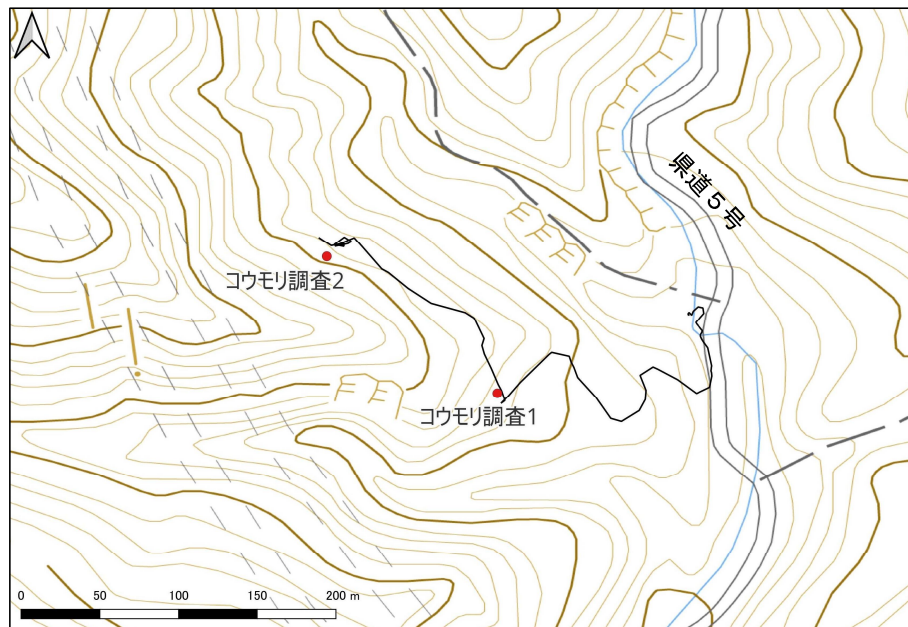


コハクウンボク : 1 本



ヒノキ : 4 本

・ コウモリ調査 調査日：9月17～18日、9月18～19日の2晩



コウモリ調査地点 1



コウモリ調査地点 2



枯葉トラップ

No.	科	種	地点1		地点2		希少種の選定基準			
			ハープ	枯葉	ハープ	枯葉	文化財	種保存	環境省	高知県
1	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ			1					
総数	1科	1種	-	-	1種	-	-	-	-	-

注1) 表中の数値は確認された個体数である。

注2) 希少種の選定基準

文化財:「文化財保護法」において天然記念物に指定されている種

特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物

種保存:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されている種

国際: 国際希少野生動植物 国内: 国内希少野生動植物 緊急: 緊急指定種

環境省:「環境省レッドリスト2020」(環境省.2020年)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

高知県:「高知県レッドリスト(動物編)2017改訂版」(高知県.2017年)において指定されている種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足



ユビナガコウモリ



ユビナガコウモリ



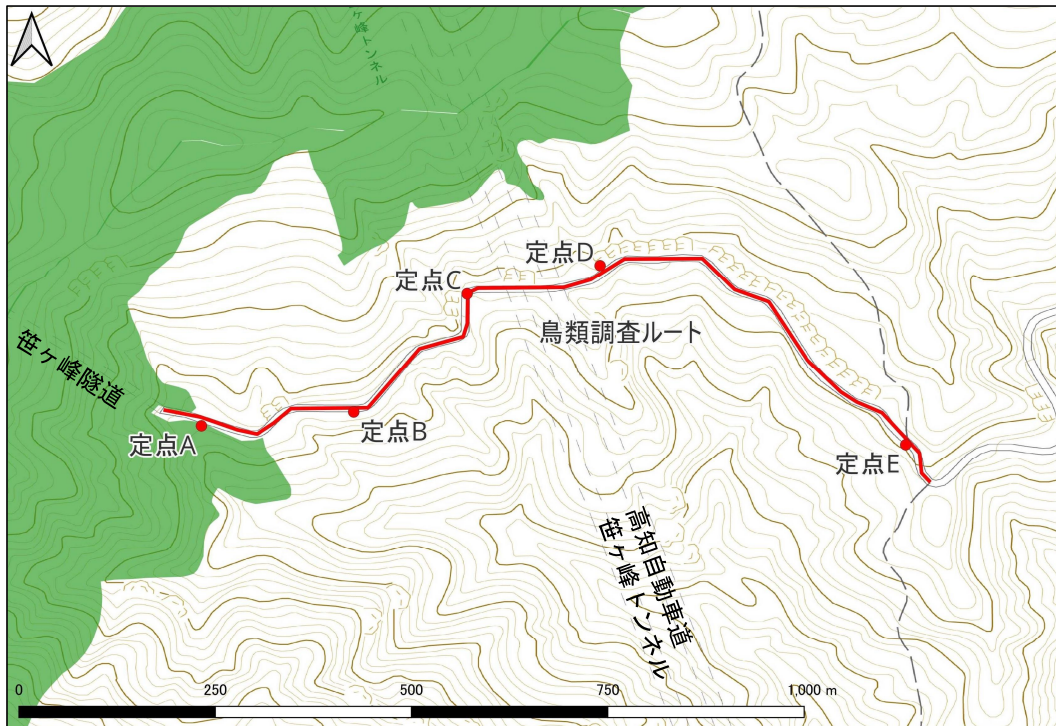
指骨の骨化状況



寄生するクモバエ

・ 鳥類調査

調査日： 渡り時期（9月18日）、越冬期（12月3日）



調査ライン



スポット： 定点A



スポット： 定点B



スポット： 定点C



スポット： 定点D



スポット： 定点E

No.	科	種	渡り 区分	調査時期		希少種の選定基準				外来種
				9月	12月	文化財	種保存	環境省	高知県	
1										
2	タカ	トビ	留鳥		1					
3	キツツキ	コゲラ	留鳥	2	3					
4		アオゲラ	留鳥	2	1					
5	カラス	カケス	留鳥	21	1					
6		ハシブトガラス	留鳥		3					
7	シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	6	12					
8		ヒガラ	留鳥	14	3					
9	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	34	7					
10	ウグイス	ウグイス	留鳥	5	7					
11	エナガ	エナガ	留鳥	3						
12	ソウシチョウ	ソウシチョウ	-	23						特定
13	メジロ	メジロ	留鳥	9	2					
14	ヒタキ	エゾビタキ	旅鳥	2						
15		ジョウビタキ	冬鳥		14					
16	セキレイ	キセキレイ	留鳥	1	1					
17	ホオジロ	ホオジロ	留鳥		12					
18		アオジ	留鳥		1					
総数	13科	18種		122	69	0	0	0	1	1

注1) 表中の数値は確認された個体数である。

注2) 希少種の選定基準

文化財:「文化財保護法」において天然記念物に指定されている種

特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物

種保存:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されている種

国際: 国際希少野生動植物 国内: 国内希少野生動植物 緊急: 緊急指定種

環境省:「環境省レッドリスト2020」(環境省2020年)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

高知県:「高知県レッドリスト(動物編)2017改訂版」(高知県2017年)において指定されている種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

注3) 外来種の選定基準

外来種:「外来生物法」において指定されている種

特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物



ヤマガラ



ヒガラ



エナガ



ソウシチョウ

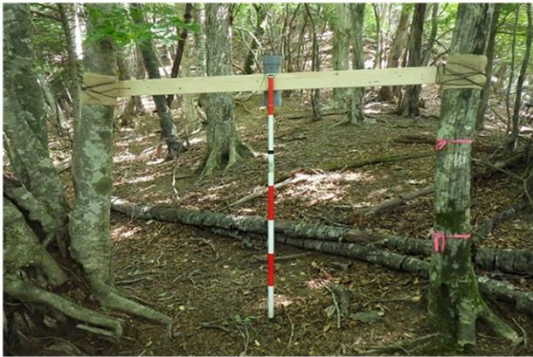


エゾビタキ

■プロット2・プロット3の哺乳類調査

ツキノワグマ調査 実施期間：7月下旬/8月上旬～12月上旬

木材設置方式

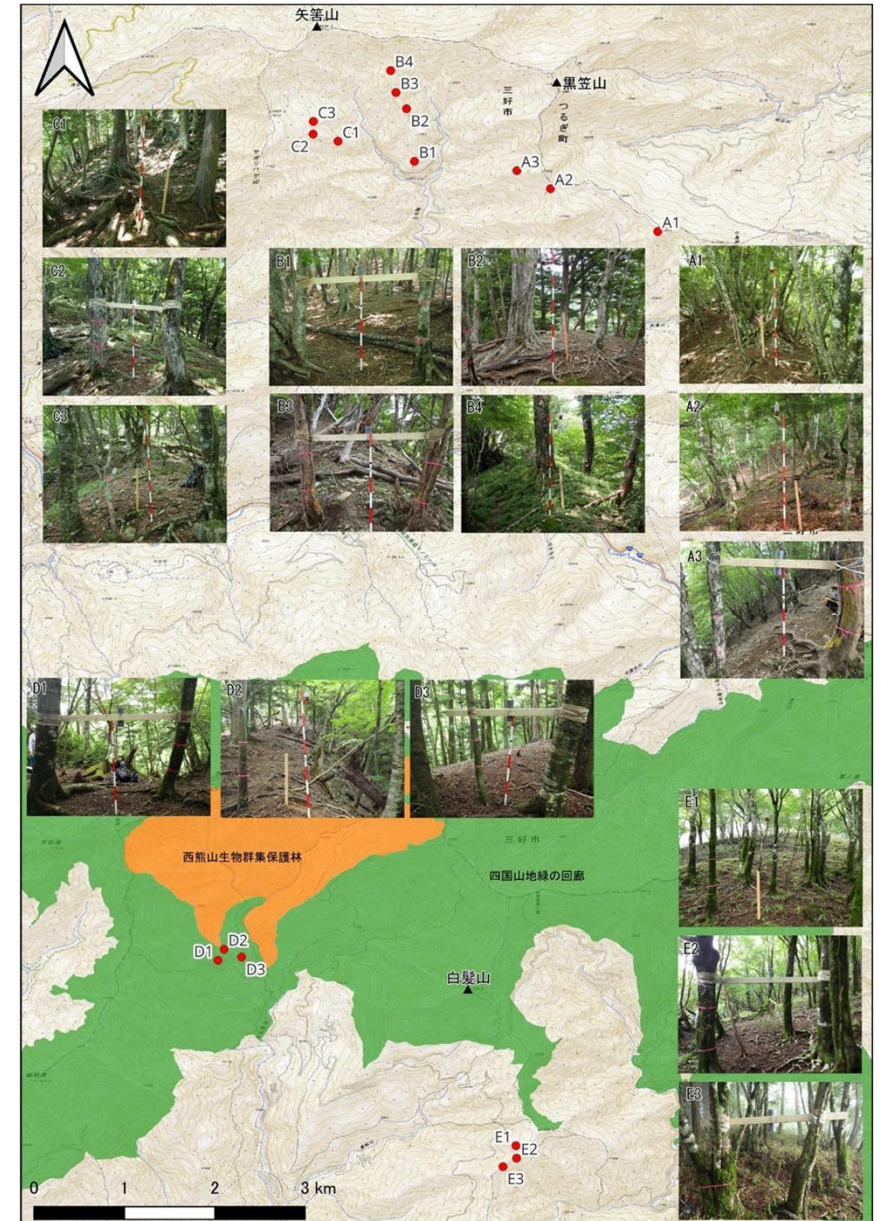


- ・2×4木材を設置する
木材の下ラインが地上高1.3mになるように、なまし鉄線（ロープでも可）で樹木に固定する。
 - ・誘引物（塩ビ管ケース）を設置する。
ボルト及び針金で塩ビ管ケースを設置する。
- （使用資材）
- ・2×4木材（38×89×1820mm）
 - ・なまし鉄線
 - ・幹巻テープ
 - ・塩ビ管（穴あけ加工）

杭設置方式



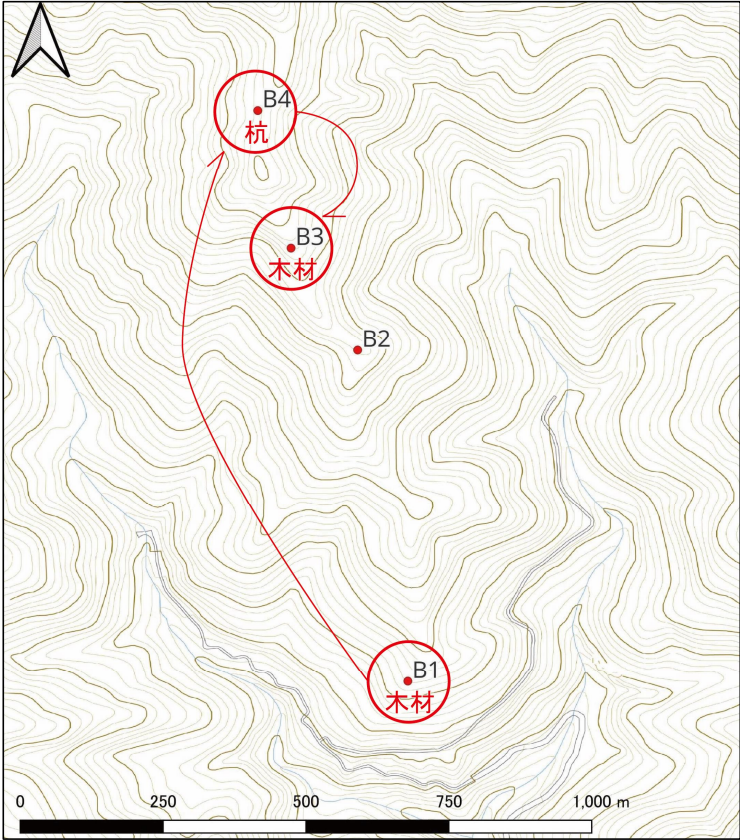
- ・誘引物（ペットボトル）を地上高2mに設置する。
周囲の樹木にロープを渡して、その中央付近に設置する。
 - ・木杭を設置する。
誘引物の真下より等高線上・山側に各々30～40cmずらした位置に地上部が90cmになるように設置する。
- （使用資材）
- ・木杭（1200×45×45mm）
 - ・ロープ
 - ・ペットボトル（穴あけ加工）



プロット2（東祖谷方面）

プロット 地域	カメラ No.	設置 方式	個体情報	撮影 枚数	撮影 時期	月の輪の 撮影状況	撮影された行動・特徴
2	黒笠山	1	杭	-	-	-	-
		2	木材	-	-	-	-
		3	杭	-	-	-	-
	霧谷川	1	木材	F1809 (サクラ)	4	9/5 17:10~ 17:11	○ 誘引物(塩ビ管)の臭いをしきりに嗅ぎ、探 取を試みようとするが、あきらめて立ち去 る。木材につかまり立ち上がる。←下腹部の 確認
		2	杭	-	-	-	-
		3	木材	F1809 (サクラ)	1	9/11 16:11	○ 誘引物(塩ビ管)の臭いを嗅ぎ、塩ビ管の 状況を確認するものの、すぐに立ち去る。 木材につかまり立ち上がる。←下腹部の 確認
		4	杭	F1809 (サクラ)	16	9/7 14:40~ 14:53	○ 誘引物(ペットボトル)の直下で何度も立ち 上がる。←下腹部の確認 誘引物を固定している樹木に登り、固定 ロープを引っ張り、誘引物を採取する。 ぶら下がる誘引物を飲み干す際に立ち上 がる。←下腹部の確認
	霧谷川	1	杭	-	-	-	-
		2	木材	-	-	-	-
		3	杭	-	-	-	-

月の輪の撮影状況：○明瞭 △やや不明瞭 ×不明瞭・撮影無し



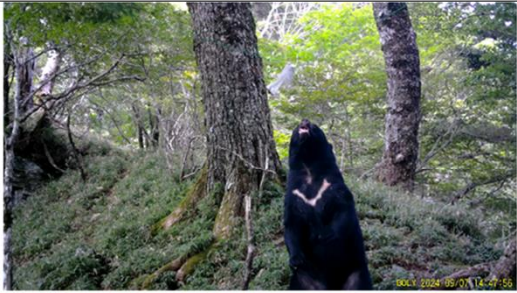
F1809（サクラ）：雌



カメラNo. B1
月の輪の撮影状況：○



カメラNo. B3
月の輪の撮影状況：○



カメラNo. B4
月の輪の撮影状況：○

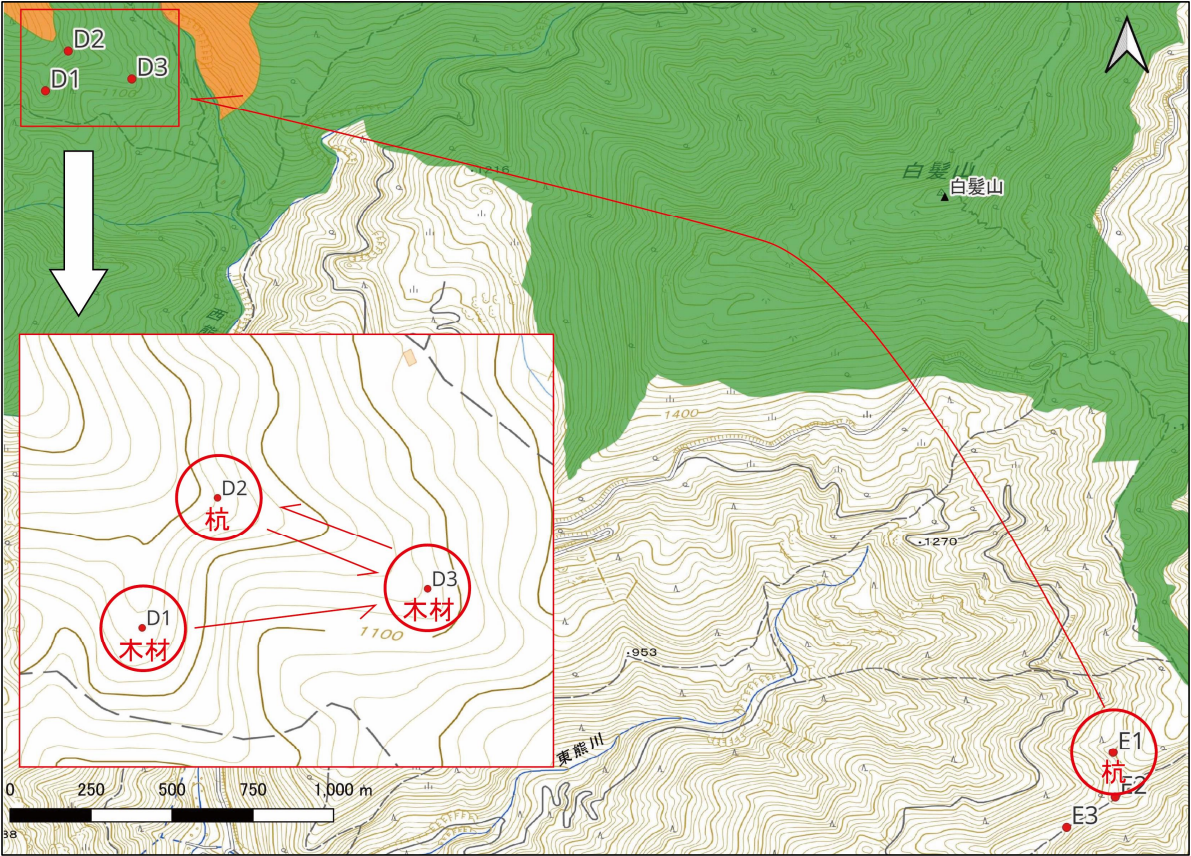


カメラNo. B4（下腹部を確認）

プロット3（西熊溪谷方面）

プロット 地域		カメラ No.	設置 方式	個体情報	撮影 枚数	撮影 時期	月の輪の 撮影状況	撮影された行動・特徴			
3	西熊 溪谷	D	1	木材	M240801 (名称未決定)	3	8/28 10:37～ 10:39	○	イヤータグNo.18、首輪装着個体。 誘引物(塩ビ管)の臭いをしきりに嗅ぎ、採 取を試みようとするが、あきらめて立ち去 る。 木材につかまり立ち上がる。←ペニス確認		
			2	杭	M240801 (名称未決定)	7	9/2 7:48～ 7:52	○	イヤータグNo.18、首輪装着個体。 誘引物(ペットボトル)を固定している樹木 に登り、固定ロープを引っ張り、誘引物を採 取する。 ぶら下がる誘引物を飲み干す際に立ち上 がる。←カメラと距離が近くて下腹部が確 認できず		
			3	木材	M240801 (名称未決定)	1	9/2 7:35	△	イヤータグ、首輪装着個体。 誘引物(塩ビ管)の臭いを嗅ぎ、塩ビ管の 状況を確認するものの、すぐに立ち去る。 木材につかまり立ち上がる。←ペニス確認		
					M240801 (名称未決定)	1	9/26 13:13	△	イヤータグNo.18、首輪装着個体。 誘引物(塩ビ管)の臭いを嗅ぎ、塩ビ管の 状況を確認するものの、すぐに立ち去る。 木材につかまり立ち上がるが背景が明る く、ペニスは確認されず。		
			東熊川	E	1	杭	M240801 (名称未決定)	10	8/27 17:27～ 17:35	○	イヤータグNo.18、首輪装着個体。 誘引物(ペットボトル)がぶら下がる周囲の 樹木に登り、誘引物を採取する。 ぶら下がる誘引物を飲み干す際に立ち上 がる。←ペニスの確認
					2	木材	-	-	-	-	-
	3	木材			-	-	-	-	-		

月の輪の撮影状況：○明瞭 △やや不明瞭 ×不明瞭・撮影無し



M240801（名称未決定）：雄



カメラNo. D1

月の輪の撮影状況：○



カメラNo. D2

月の輪の撮影状況：○



カメラNo. D3

月の輪の撮影状況：△

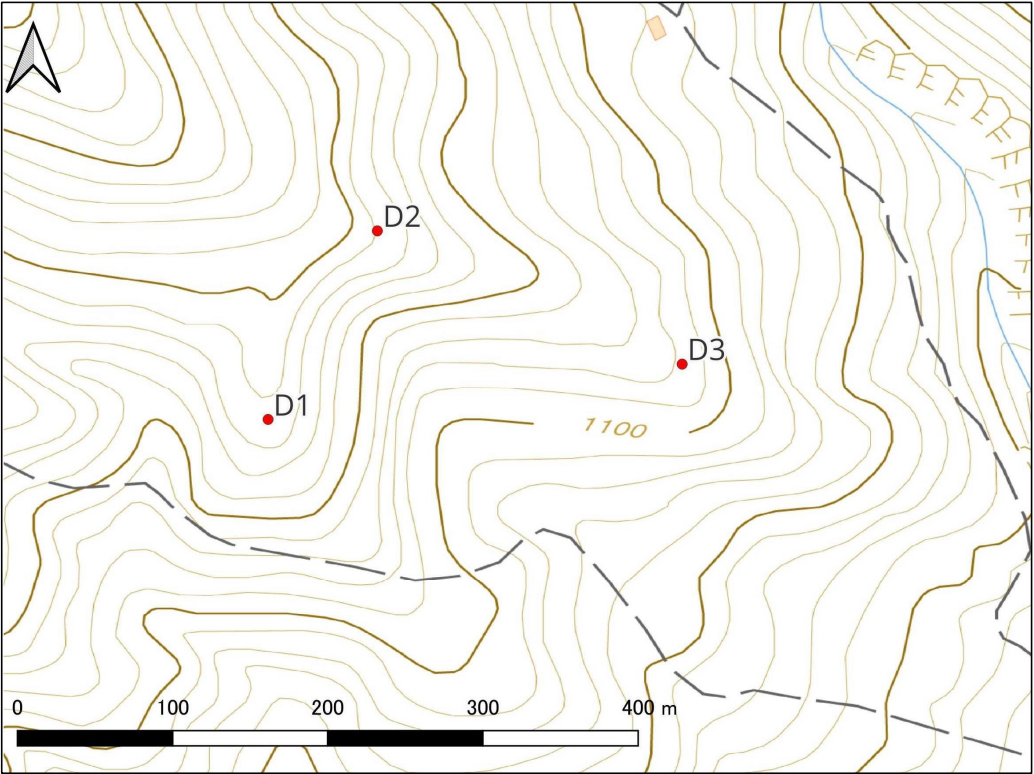


カメラNo. E1（ペニスを確認）

月の輪の撮影状況：○

プロット 地域		カメラ No.		設置 方式	個体情報	撮影 枚数	撮影 時期	月の輪の 撮影状況	撮影された行動・特徴
3	西熊 溪谷	D	1	木材	不明	1	9/13 14:13	×	カメラ前を通過したのみ。
					不明	1	10/4 7:31	×	カメラ前を通過したのみ。
			3	木材	不明 (2019-Cの可 能性あり)	1	9/24 14:38	△	誘引物(塩ビ管)の臭いを嗅ぎ、塩ビ管の 状況を確認するものの、すぐに立ち去る。 立ち上がった背丈は1.2m程のやや痩せた 個体である。木材につかまり立ち上がる。 ←下腹部の確認
					不明	1	10/18 0:35	×	カメラ前を通過したのみ。
					不明	1	10/18 0:35	×	カメラ前を通過したのみ。

月の輪の撮影状況:○明瞭 △やや不明瞭 ×不明瞭・撮影無し



不明個体（2019-Cの可能性あり）：雌と思われる

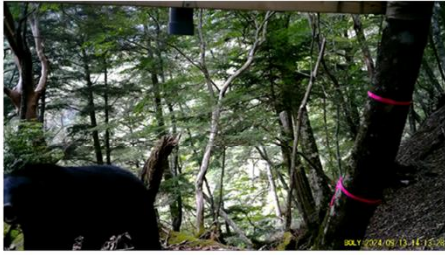


カメラNo. D3（9/24）
月の輪の撮影状況：△

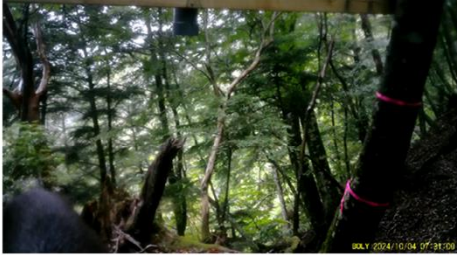


カメラNo. D3（9/24）
（下腹部を確認）

不明個体：性別不明



カメラNo. D1（9/13）
月の輪の撮影状況：×



カメラNo. D1（10/4）
月の輪の撮影状況：×



カメラNo. D3（10/18）
月の輪の撮影状況：×

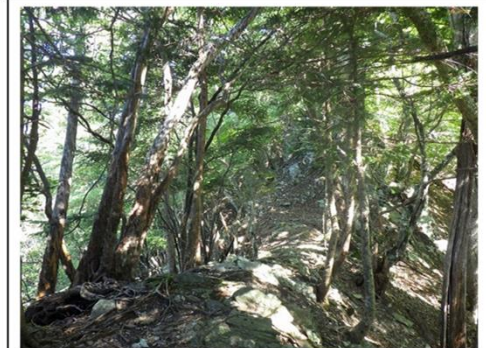
その他補完調査

ツキノワグマ調査地の森林被害状況

- ・ 黒笠山地域（A 地区）
下層植生が貧弱
ディアライン形成 ➡ 植生被害レベル 3
- ・ 霧谷川地域（B 地区）
下層植生が貧弱
ディアライン形成 ➡ 植生被害レベル 3
- ・ 霧谷川地域（C 地区）
下層植生が貧弱
ディアライン形成 ➡ 植生被害レベル 3
- ・ 西熊溪谷地域（D 地区）
下層植生が貧弱
ディアライン形成 ➡ 植生被害レベル 3
- ・ 東熊川地域（E 地区）
ササ類が矮小化
ディアライン形成 ➡ 植生被害レベル 3



黒笠山地域（A 地区）



霧谷川地域（B 地区）



霧谷川地域（C 地区）



西熊溪谷地域（D 地区）

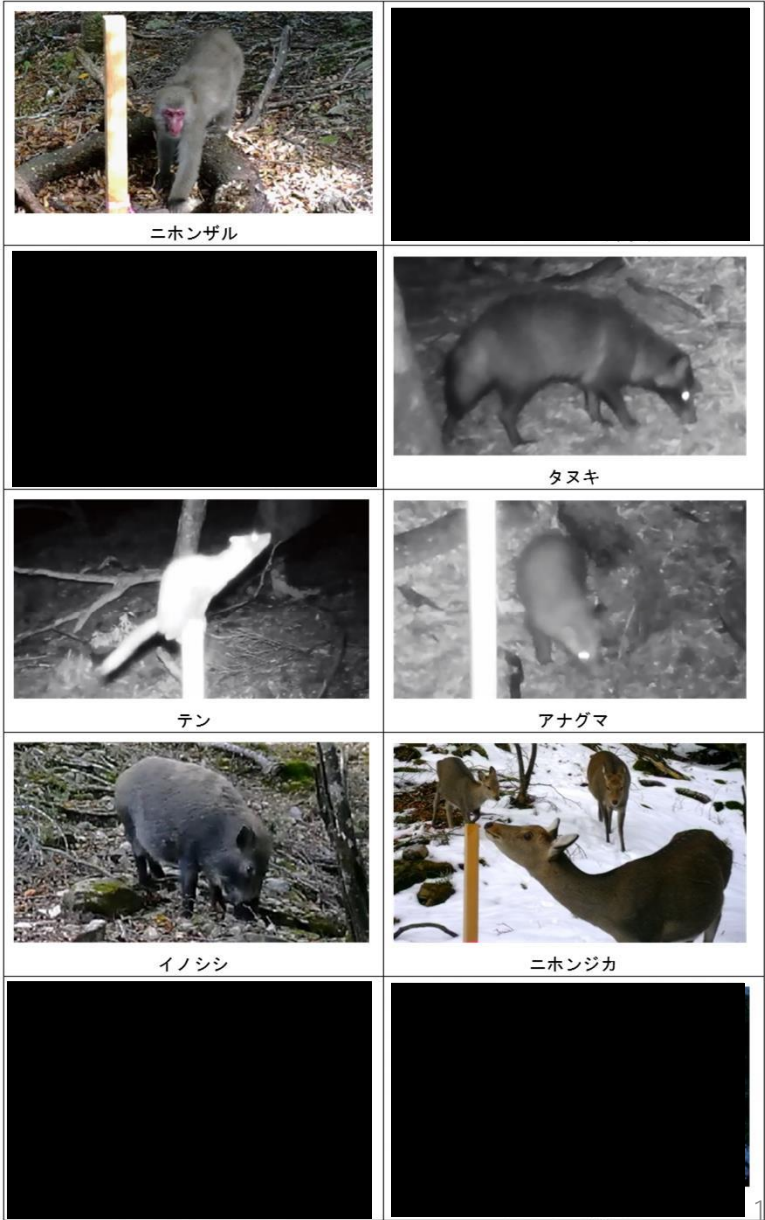


東熊川地域（E 地区）

ツキノワグマ調査地の生息種

分類	科	種	確認状況					希少種の選定基準					外来種
			プロット2			プロット3		文化財	種保存	環境省	徳島県	高知県	
			A地区	B地区	C地区	D地区	E地区						
哺乳類	コウモリ類		2										
	オナガザル	ニホンザル	36	1	11	33	54						
	ウサギ	ノウサギ	1	1	2		1						
	ネズミ	ネズミsp.		1									
	リス	ニホンリス				○						(注目種)	
	イヌ	タヌキ	9	2	9	4	2						
		キツネ				3							
	イタチ	テン	15	6	5	3	6						
		アナグマ	9	1	10	4	5						
	ジャコウネコ	ハクビシン	1	2									
	イノシシ	イノシシ	3	16	7	2	2						
	シカ	ニホンジカ	238	600	489	509	176						
総数	12科	15種	10種	11種	8種	11種	8種	1種		2種	1種	3種	
鳥類													
総数	1科	1種	0種	1種	1種	1種	1種					1種	
その他	不明種		11	4	10	2	8						

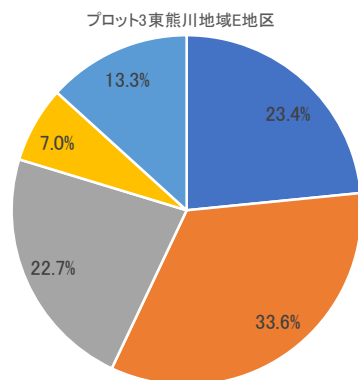
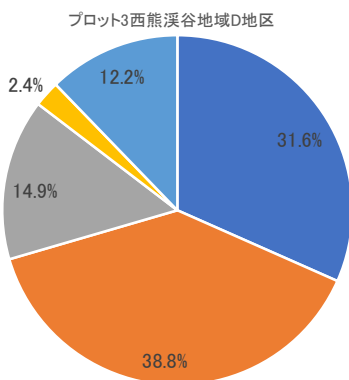
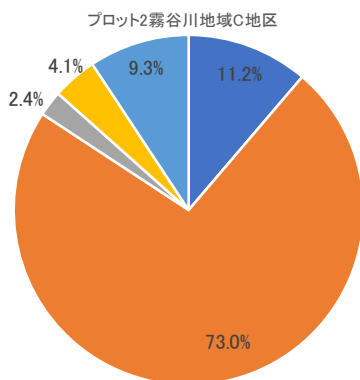
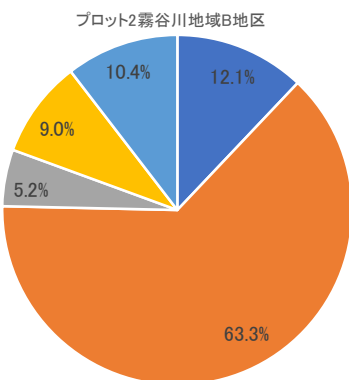
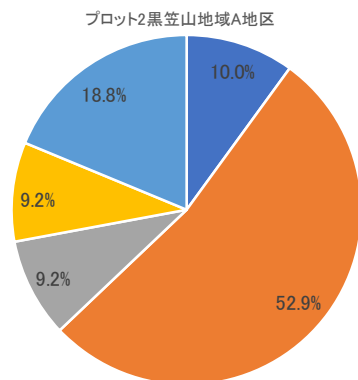
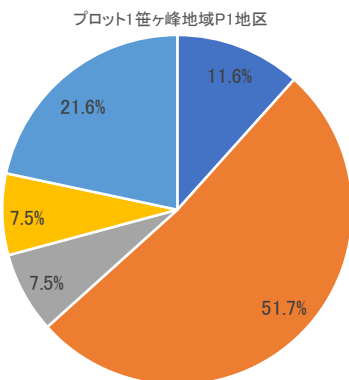
注1) 表中の数値はセンサーカメラで撮影された画像のデータ数であり、○はフィールドサイン等のみの確認である。
注2) 痕跡情報(フィールドサイン)は糞、足跡、食痕、剥皮、角とぎ、鳴き声、生体、死骸での確認である。
注3) 希少種の選定基準
文化財:「文化財保護法」において天然記念物に指定されている種
特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物
種保存: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されている種
国際: 国際希少野生動植物 国内: 国内希少野生動植物 緊急: 緊急指定種
環境省: 「環境省レッドリスト2020」(環境省2020年)
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
徳島県: 「徳島県版レッドリスト」(徳島県2011年)において指定されている種
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 留意
高知県: 「高知県レッドリスト(動物編)2017改訂版」(高知県2017年)において指定されている種
EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足
注4) 外来種の選定基準
外来種: 「外来生物法」において指定されている種
特定: 特定外来生物 未判定: 未判定外来生物



ニホンジカの生息状況

調査地・カメラNo			撮影個体数(頭)																						総合計
			夏季(7月～8月)					秋季(9月～11月)					冬季(12月)					合計							
			成獣 (雄)	成獣 (雌)	亜成獣 (雄)	幼獣	不明	成獣 (雄)	成獣 (雌)	亜成獣 (雄)	幼獣	不明	成獣 (雄)	成獣 (雌)	亜成獣 (雄)	幼獣	不明	成獣 (雄)	成獣 (雌)	亜成獣 (雄)	幼獣	不明	合計		
プロット1	笹ヶ峰地域 (P1地区)	1	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	8	439		
		2	3	39	3	9	7	39	118	19	15	72	2	2	0	0	5	44	159	22	24	84		333	
		3	0	13	3	5	1	6	52	7	4	7	0	0	0	0	0	6	65	10	9	8		98	
プロット2	黒笠山地域 A地区	A1	0	1	3	4	2	2	4	11	0	11	0	0	0	0	0	2	5	14	4	13	38	240	
		A2	1	15	0	2	3	16	30	2	3	11	0	0	0	0	0	17	45	2	5	14	83		
		A3	0	8	0	0	3	5	69	6	13	15	0	0	0	0	0	5	77	6	13	18	119		
	霧谷川地域 (B地区)	B1	0	6	0	1	0	42	128	11	29	38	0	1	0	1	0	42	135	11	31	38	257	556	
		B2	0	3	0	0	0	5	77	5	7	9	0	1	0	0	0	5	81	5	7	9	107		
		B3	2	1	0	0	0	10	88	7	7	7	0	2	0	0	0	12	91	7	7	7	124		
	(C地区)	B4	1	14	2	1	0	7	31	4	4	4	0	0	0	0	0	8	45	6	5	4	68	463	
		C1	1	44	2	8	4	16	83	4	5	21	0	0	0	0	0	17	127	6	13	25	188		
		C2	0	18	0	1	2	6	57	2	0	10	0	0	0	0	0	6	75	2	1	12	96		
プロット3	西熊渓谷地域 (D地区)	C3	1	53	1	4	0	28	74	2	1	6	0	9	0	0	0	29	136	3	5	6	179	376	
		D1	0	2	3	0	1	75	45	12	3	29	0	1	0	0	1	75	48	15	3	31	172		
		D2	3	9	1	1	0	20	32	9	4	2	3	0	0	0	1	26	41	10	5	3	85		
	東熊川地域 (E地区)	D3	0	9	4	1	3	17	48	27	0	9	1	0	0	0	0	18	57	31	1	12	119	128	
		E1	1	5	1	8	4	14	18	0	1	5	0	3	0	0	0	15	26	1	9	9	60		
		E2	2	1	1	0	0	5	15	19	0	3	0	1	2	0	1	7	17	22	0	4	50		
		E3	0	0	1	0	0	7	0	5	0	4	1	0	0	0	0	8	0	6	0	4	18		

- ・ 夏季（7～8月）から秋季（9～11月）にかけて個体数が増加
- ・ 成獣（雄）及び亜成獣（雄）は、秋季に撮影個体数が増加 → 発情期に伴い行動範囲を拡大
- ・ 東熊川地域を除いた各地域で成獣（雌）の延べ個体数が100頭以上
笹ヶ峰地域と霧谷川地域C地区は夏季から多数生息
- ・ 幼獣は全調査地域で確認され、霧谷川地域B地区が最多、笹ヶ峰地域や黒笠山地域でも多数生息



■ 成獣(雄) ■ 成獣(雌) ■ 亜成獣(雄) ■ 幼獣 ■ 不明

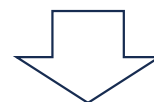
■ニホンジカの繁殖情報

・ 笹ヶ峰地域

発情期に当たる10月以降に成獣（雄）が複数の成獣（雌）と群れている状況を撮影

・ 東熊川地域

ニホンジカの交尾を撮影



秋季に繁殖場としてニホンジカが集まる地域



雄雌の群れ（笹ヶ峰地域 10/31）



交尾の状況（東熊川地域 10/21）

総括

緑の回廊：プロット1 笹ヶ峰地域

■デザイン

森林の構成状況：途中攪乱相段階のブナ林
過去に攪乱が生じた後に遷移が進んでいない森林
次世代の林冠を担う高木性樹種は、亜高木層において種数、本数共に増加

森林の被害状況：ニホンジカによる森林被害が下層植生だけでなく、立木の生育にも影響を与えている
ニホンジカが多数生息し、秋季に繁殖場として集まる地域
今後も森林被害は続き、その影響が拡大する可能性あり

■価値

野生動物の生息状況：[REDACTED]が生息
(プロット2、プロット3では、[REDACTED] 確認)

■利活用

森林環境教育の場としての利用状況：登山道はあるが、イベント等の利用はなし

■管理体制

緑の回廊の普及啓発、巡視状況等：3年に1度程度の境界巡視のみで、特になし

緑の回廊の課題：ニホンジカ被害

■現状

- ・ニホンジカが多数生息
- ・植生被害レベル3



ニホンジカによる森林被害が顕在化

■現状の対応

- ・笹ヶ峰地域：特になし
- ・緑の回廊全体：四国森林管理局や環境省、各県によるニホンジカの捕獲や調査
ボランティア組織と連携した防鹿柵や単木ラス巻き等による植生の保護・回復



継続が重要

■今後の調査

- ・笹ヶ峰地域は途中攪乱相段階のまま遷移が進んでいない森林であり、下層植生のスズタケが開花に伴う一斉枯死が生じた時に急激に森林被害が広がるおそれあり



モニタリング実施頻度の検討が必要

(例)

- ・被害の増加が懸念される地域は5年間隔
- ・比較的被害が落ち着いている地域は10年間隔

調査方法に関する提案

■現状

ツキノワグマの生息数が少ない



多様な主体による生息調査の継続が重要

表 設置方式ごとのメリット・デメリット

	木材設置方式	杭設置方式
設置	・ 木材の大きさにより設置場所に制限が出る。 ・ 設置可能場所の探索に時間を有する。 ・ 設置資材が大きく、資材量も多いため運搬労力が大きい。	・ 設置場所の制限が少なく、ツキノワグマの行動に併せて設置できる。 ・ 誘引物の設置位置が高い（地上高2m）ため、踏み台が必要である。 ・ 設置資材が小さく、資材量も少ないため運搬労力が小さい。
誘引物	・ 塩ビ管カバーがあるためにツキノワグマに採取されず、繰り返し誘引できる。 ・ 誘引物が採取できないことを学習したツキノワグマは、別地点のトラップも確認程度ですぐに立ち去る。	・ ツキノワグマに採取されると誘引効果が消失する。
撮影効率	・ 月の輪が確認できる。 ・ ペニス等の性別情報が得られる。 ・ 誘引物が採取されずに繰り返しトラップ利用できることから、複数個体のデータが得られる。 ・ 誘引物が採取できないために撮影枚数は少ない（1～4枚）。	・ 月の輪が確認できる。 ・ ペニス等の性別情報が得られる。 ・ 誘引物が採取されるとその1回だけの撮影となり、その後の撮影機会が失われる。 ・ 誘引物を採取する間に繰り返し撮影されるために撮影枚数は多い（7～16枚）。

青字：メリット 赤字：デメリット

ツキノワグマ調査における調査地点及び設置方式の提案内容

プロット		提案内容
2	黒笠山	[杭設置方式] 令和5年度及び本年度共にツキノワグマの利用が確認されておらず、細い尾根地点であるため、周辺でより適した調査地点を検討する。
		[木材設置方式] 過年度に撮影実績があるため、同地点で実施する。ただし、本年度はセンサーカメラと誘引物等資材との距離がやや近いため、周辺でより適した資材設置木を検討する。
		[杭設置方式] 令和5年度及び本年度共にツキノワグマの利用が確認されていないが、センサーカメラにおける撮影画角が良いため、同地点で実施する。
	霧谷川	[木材設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影され、過年度にも撮影実績があるため、同地点で実施する。
		[杭設置方式] 令和5年度及び本年度共にツキノワグマの利用が確認されていないが、センサーカメラにおける撮影画角が良いため、同地点で実施する。
		[木材設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影され、過年度にも撮影実績があるため、同地点で実施する。
		[杭設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影され、過年度にも撮影実績があるため、同地点で実施する。
		[杭設置方式] 令和5年度及び本年度共にツキノワグマの利用が確認されていないが、センサーカメラにおける撮影画角が良いため、同地点で実施する。
		[木材設置方式] 令和5年度及び本年度共にツキノワグマの利用が確認されていないが、センサーカメラにおける撮影画角が良いため、同地点で実施する。
		[杭設置方式] 令和5年度及び本年度共にツキノワグマの利用が確認されていないが、センサーカメラにおける撮影画角が良いため、同地点で実施する。

プロット		提案内容
3	西熊溪谷	[木材設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影され、過年度にも撮影実績があるため、同地点で実施する。ただし、本年度はセンサーカメラと誘引物等資材との距離がやや近いため、周辺でより適した資材設置木を検討する。
		[杭設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影されているため、同地点で実施する。ただし、本年度はセンサーカメラと誘引物等資材との距離がやや近いため、周辺でより適した資材設置木を検討する。
		[木材設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影され、過年度にも撮影実績があるため、同地点で実施する。
	東熊川	[杭設置方式] 本年度にツキノワグマが撮影されているため、同地点で実施する。ただし、秋季に太陽光によりセンサーカメラが誤作動することがあるので、設置角度等を調整する。
		[木材設置方式] 過年度に撮影実績があるため、同地点で実施する。
		[木材設置方式] 過年度に撮影実績があるため、同地点で実施する。

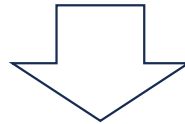
調査時期に関する提案

■本年度の鳥類調査時期（業務期間：令和6年6月26日～令和7年3月12日）

夏鳥（繁殖期5～6月）：実施できず

秋の渡り時期（9月）：実施

越冬期（12月）：実施



幅広く鳥類相を把握するために繁殖期である5～6月に現地調査を実施することが望ましい。

その他(はしっこプロジェクトによる哺乳類調査：自動撮影カメラ調査)

自動撮影カメラの結果

場所	高知中部森林管理署 本谷山国有林27る林班外 2			
設置期間	令和6年6月12日～令和6年12月6日			
カメラNo	①	②	③	備考
ニホンノウサギ		○	○	
ニホンリス	○	○	○	
ホンドタヌキ	○	○	○	
ホンドテン		○		
ニホンアナグマ	○	○	○	
ハクビシン	○	○		
ニホンイノシシ	○	○	○	
ニホンジカ	○	○	○	
計	6	9	8	

